

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム・しらかば	評価実施年月日	平成19年9月21日
評価実施構成員氏名	・菅原 日登美                      ・佐藤 俊子                      ・平村 昇 ・吉田 悦子                      ・大石 恵美子                      ・神野 秀美 ・三浦 拓也                      ・佐藤 美千代                      ・今澤 綾		
記録者氏名	菅原 日登美	記録年月日	平成19年9月21日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「運営理念」「ケア理念」として『家庭的な雰囲気の中で地域住民との交流の下、一人ひとりが自分らしく生き生きとした人生を送る為、役割を持ち、自信をもって暮らしていけるような関りをしていく』を掲げている。	○ 医療連携体制を活かして、医療処置を受けながらの生活の継続、重度化した場合や、終末期の入院の回避をし、入居者様と最後まで一緒に暮らしたい
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関・フロア、スタッフルームに掲示しており、全職員が、理念を念頭に日々話し合い、確認し合っており、個別性のあるケアに取り組んでいる。	○ 今後も変わらず、理念に基づいて全職員がその人個人を同じ視点で見つめることができるようなケアを心がけていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	入居者様が近隣の方の軒下を歩いたり庭に入ってしまったりなど、ご迷惑をおかけすることもあり、事情を説明してご理解を頂いている。	○ ・ご家族の了解の下、広報により町内会の皆様にご理解、ご協力をお願いすることを検討している。 ・事業所の運営を通して、地域に於ける認知症のケアのあり方を広めていく様な取り組みをしたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	入居者様の散歩中、又、ホーム周辺を散歩される地域住民の方と挨拶はするが、ホーム内に入って頂いて交流するまでには至っていない。	○ 入居者様とお茶を飲んだり、一緒にカラオケを楽しむなど、近隣の方々が気軽に立ち寄って頂けるような環境作りをしていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	盆祭りの案内を頂き、お祭り広場での出し物を見物したり、出店を覗いたりして地域の方々と触れ合うことができた。又、1回/月ボランティアの方々によるオカリナの演奏やきれいな歌声、そして皆で合唱するなど楽しませて頂いている。	○ 防犯の目的もあり、電柱の設置に関して町内会の役員の方から助言を頂くなど気にかけて頂いています。今後は自治会などに参加させて頂き情報交換していきたい。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホーム見学者の方から、認知症の家族への対応について、また、他施設入所中であるがその施設間との関りについての悩みの相談に対する助言など行なっている。	○ 入居者様との関りを通して学んだ認知症の理解や関わり方についての相談対応、地域住民やボランティアの見学の受け入れなど、地域の高齢者の暮らしの向上に取り組みたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>評価は振り返りや見直しの良い機会となっている。</p>	○	継続的に評価することで職員の質の向上を図り事業所全体の質の確保に活かしていきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>昨年は11月に実施。本年は10月に開催予定。</p>	○	外部の人々から事業所の取り組み内容について率直な意見を引き出し、改善すべき点は早急に改善するなど、具体的な取り組みに繋げていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>課題が出現した場合は積極的に市の担当者に相談しながら解決を図っている。</p>	○	今後も関係作りを積極的に行い協働関係を継続していく様心がける。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>・管理者は研修で学んだ知識を事業所内勉強会で伝達講習している。 ・家族等に成年後見制度について情報提供し、状況によっては関係機関への橋渡しを行なっている。</p>	○	ご本人・ご家族に適切な情報の提供ができるよう権利擁護に関する制度について更に理解を深めるよう努めます。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>管理者は研修で学んだ知識を事業所内勉強会で伝達講習している。</p>	○	新聞やTVなどで心が痛くなるような報道があり、その都度職員間で自分たちのケアを振りかえっており、虐待に繋がらないよう心身共に、最良の健康状態で入居者様と関わっていくことが大事であると思われ、今後も実行していく。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>・契約書に事業者の義務、利用者の義務が記されている。 ・利用者及び家族に対して必要な情報提供をしている。</p>	○	利用者及び契約者の権利については事業所内に掲示してあるものの契約書及び重要事項説明書には掲載していないため検討したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦情処理箱を備えつけている。</li> <li>・ご本人が自分の思いを表出しやすいような場面作りや働きかけを心がけている。</li> <li>・ご家族からの要望や不満は速やかに検討し対応している。</li> </ul>	○	<p>今後も継続しご本人・ご家族等の意見や苦情等を運営に反映させていく。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族の来訪時はご本人も交えて報告している。</li> <li>・1回/月、生活状況を手紙に書いて報告している。</li> <li>・電話でその都度報告することもある。</li> <li>・現状の生活では不必要な物もあり、また、必要だけど「ない物」もあるため、その都度説明して対応している。</li> </ul>	○	<p>家族と、もっと長い時間接したいと望む入居者様に対しては、ご家族にホームに泊まって頂いたり、外泊して頂いたり、家族と共に過ごす時間を作れるように働きかけていきたい。</p>
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事業所の他、市や国保連の苦情受け付け相談窓口等に苦情を伝えることができる旨を重要事項説明書に記載している</li> <li>・苦情処理箱を設けている。</li> <li>・話しあえる雰囲気作りが心がけている。</li> </ul>	○	<p>サービスの質の確保・向上のためにご家族等の率直な意見は大切であると考え、意見や苦情、不満を前向きに活かすよう心がける。</p>
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回/月、カンファレンスを行い意見交換しており、出された意見や提案は運営に反映されている。</li> <li>・職員欠員時の対応など職員からの要望に応じている。</li> <li>・利用者様にとって必要な物の購入等、早急に対応している。</li> </ul>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>職員欠員時は利用者様の安全を第一に考慮し、必要な時間帯に職員を確保するなど、勤務の調整をし臨機応変に対応している。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>身体的不調のため止む無く離職に至る職員との入れ替わり時には、利用者様、ご家族に事情を説明し新職員が一日も早く受け入れてもらえるよう努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・事業所内勉強会を1回／月程度行ってサービスの質の向上を図っている。 ・外部の研修参加を希望しているが難しい状況である。	○	・事業所内の勉強会は継続して行く。 ・職員の質の向上を図る為できるだけ事業所外の研修にも参加したい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	勉強会に参加したり、他事業所を見学させて頂いたり、グループホーム連絡会の研修会・交流会などに参加するなど職員間では積極的にこなしている。	○	グループホーム同士で訪問しあい情報交換しあってサービスの質向上に繋がってきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	・日々変化のある利用者さんを介護するにあたっては、定められた休憩を取ることは難しいがその時の状態に応じた方法で休憩を取るようには心がけている。 ・職員の私物が置ける場所が確保されているなど職場環境作りをしている。 ・1回／年、他事業所の職員との交流で親睦を図っている。	○	・身体的な疲れからストレスを生じさせないようにしたい。 ・9時間労働にならないように休憩方法を検討する。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	・運営者は1回／週程度、来訪し現場で起きている状況や変化を把握するよう努めており、適切な助言や指導を行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	日々、話しができる雰囲気作りをするなど話しやすい雰囲気作りが心がけている。	○	今後も話しやすい雰囲気作りなど良好な環境作りをしていく。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	・ご家族の立場に立って話しを聞き、受け止めるように心がけている。 ・家族同士でも思いが異なる場合もあり難しいこともあるが、できるだけ家族の体験や思いを理解するよう努めている。 ・その時点で関わっている介護支援専門員、民生委員など事情を周知している関係者も含めて相談する。	○	今後もご本人・ご家族との充実した関係作りにより安心して生活していただけるよう心がけたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	一人ひとりの状況に応じた対応に心がけている。	○	今後も家族の思い、状況等を確認し地域包括支援センターや地域の介護支援専門員等に相談しながら、その人にとってなにが必要なのかを見極めた対応ができるよう努めたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	その方の状態により「いきなり入居」という形ではなくショートステイの形で雰囲気馴染んで頂くなどの工夫をしている。	○	利用者様の視点に立ち、ご家族と十分な話し合いをして、ご本人とご家族にあった個別の利用開始の調整を行なっていけるよう努めます。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者様の喜怒哀楽に関心を寄せながら一緒に過ごし学び・支えあう関係作り心がけている。	○	今後も喜び、楽しみ、こだわり、苦しみ、哀しみ、不安などのご本人の思いを共感し理解してくことができるよう努めます。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族がいつでも来やすい雰囲気作り心がけている。</li> <li>・ご家族来訪時は一緒にお茶を飲んで頂いたり談話に加わったりして歓迎している。</li> <li>・入居者様の様子を伝えたり、職員の思いを伝える等のコミュニケーションをとっている。</li> </ul>	○	ご家族と共にご本人を支える姿勢で一緒に考えていける自然な人間関係を目指します。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回/月のお便りで入居者様の様子を知らせたり、4回/年のホーム便りなどで生活状況をお知らせし、家族が本人との繋がりを深めていけるような工夫をしている。</li> <li>・家族と本人との絆を大切に、家族の役割が継続できるよう配慮している。</li> </ul>	○	ご本人とご家族の繋がりを深めていけるよう、ホームでの暮らしや介護にご家族が関れる場面や機会作りをしていきます。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人・友人に逢いに行く人もいるが、馴染みだった人も高齢になり、行き来できない状態の人が殆どである。時折訪れる友人のことがわからなくなっている人もいる。	○	できるだけご本人の意向を確認しながら馴染みの場所に出掛けられるような支援をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	・一人ひとりの個性を踏まえ、利用者間の仲の善し悪しに考慮して利用者が孤立してしまわないように気遣いしている。 ・他者とのトラブルを避けることのできるようなホッとできるスペース(リビングから離れた場所にベンチ)を設けている。	○	できるだけ利用者様同士のトラブルは避けるよう心がけ、トラブル発生した場合にはホーム全体の雰囲気や和ませ、他の利用者様へ悪影響を及ぼさないよう努めます。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを理解しようと心がけているが、言葉で表現することが難しいという方には日々の行動や表情などから汲み取り、把握するよう努めており、ご本人の視点に立って職員間での話し合いをしている。	○	今後も同様の支援をしていく。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活状況についてはお嫁さんやお孫さんからの情報が多く、「昔のことはよく知らない」というのが現状であり、詳細の把握は難しい。	○	ご家族に確認の上、ゆっくり急がずご本人と親交のあった方達からも情報を得て、自分らしい生活ができるような関りをしていきたい。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	・個人の生活リズムや暮らし方を把握しており、体調に応じた関りをしている。 ・できること・わかることを生活や行動から感じ取り、ご本人の全体像を把握するよう努めている。	○	今後も同様の関りを継続する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・ご家族を交えたカンファレンスなどで利用者本位の介護計画を作成している。 ・定期的にケアカンファレンスを開催し、職員間で出された意見を介護計画に反映させている。	○	ご家族を交えたカンファレンスは率直な意見や要望・希望が又、ホームでの暮らし方、職員の思いが直接伝わり、介護計画に反映されているため今後も継続し、できるだけ多くのご家族に参加して頂けるよう働きかける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・期間にとらわれず変化に応じて計画の見直しをしている。 ・介護計画の遂行状況・効果などを評価している。	○	状態の変化に応じてその時々話し合い、計画の見直しをすることで実情に応じたケアに繋がるものと考えられる為継続していく。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個別にファイルを用意し生活アセスメントシートにより、食事・水分量・排泄等身体状況や暮らしの様子、本人の言葉・エピソード等を記録し、職員間で情報を共有できるようになっている。	○	実践していることでも、書くことに慣れていないため記録として残らないことも多くあり、全職員が書くことに慣れていくようにする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ご家族の了解の下、顔写真・本人の特徴などを記して近隣の派出所に置かせて頂き、外出して行方がわからなくなった時に捜索を協力して頂ける体制をとっている。	○	事故防止のため今後も継続。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	・ベッド手すりやその他の介護用品等について福祉用具専門相談員と関り事業所以外のサービスに繋げるなど外部との連携を図っている。 ・管理者は苫小牧市ケアマネ連絡協議会、高齢者等の地域ケアを進める会に所属しており地域の他のケアマネージャーやサービス事業者との連携によりサービス活用に活かすことが可能である。	○	今後も継続
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	成年後見についての相談や困難事例などの相談をしている。	○	入居中の利用者様の状態の変化により事業所内で解決が難しい場合等は相談しながら解決していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	・1回/月の往診、その都度状態に応じた受診など医療機関との連携を図っている。 ・家族対応の受診時は、情報を伝達し受診結果を報告して頂くなど又、治療法について確認し合意の上行なっている。	○	今後も継続
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	入居後は専門医の受診はなく、かかりつけ医からの処方により継続治療している。	○	入居時と比較して、認知症の進行が明らかな方も多いため専門医の受診を予定している。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師配置にて日常の健康管理や医療活用ができています。	○	今後も継続
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には病状や身体状況把握のため、お見舞いしたり医療機関に情報提供、また、入院中の情報を頂いたり、医療機関との連携を図っている。	○	今後も継続
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご本人やご家族の意向を伺い、重度化した場合は、事業所として対応可能な方法を踏まえて方針を職員間で話し合っている。	○	今後も継続
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	緊急時に備え対応のマニュアルを作成しており職員間で共有している。	○	ホームでの看取りをご希望される方が多く、職員間で話し合っており、医療連携体制作りに取り組む準備をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄の誘導など目立たず、さりげない言葉かけや対応に配慮するよう心がけている。</li> <li>・全職員が個人情報保護法を理解し、記録などで個人の情報が漏洩しないよう心がけている。</li> <li>・記録には状況により他利用者様についても記載しなければならないことがあるため、氏名はアルファベットで記載するなど留意している。</li> </ul>	○	カンファレンスや勉強会などで個人に対する接し方、個人情報の取り扱い等更に学習していく。
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シグナルをキャッチできるよう行為・行動の意味を理解するよう心がけている。</li> <li>・一人ひとりのコミュニケーション方法の特徴を知ることができている。</li> <li>・意思・希望や要望を表出できるような環境作りがなされている。</li> </ul>	○	今後も職員の都合に合わせてではなくゆっくりと自己決定に向けた働きかけ、関わりをしていく。
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ご本人のペースを尊重し、体調にあった日々の暮らしをして頂くなどを心がけているが、優先順位を考えると、個人を尊重した個別の支援が十分にできない日もある。</p>	○	グループホームの特性を生かし、型にはまったものではなく、一日が「楽しかった」と思える変化のある日常を提供できるよう職員の意識改革をいいていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ自分の望む服装をして頂いているが、寒い日、暑い日などは助言する。</li> <li>・個人に合わせて家族と馴染みの美容室に行ったり訪問美容室を依頼したり、家族来訪時に散髪したり、個人の望む対応をしている。</li> </ul>	○	今後も個人の希望に沿った方法を継続していく。
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円状になって職員も一緒に、全員の顔や表情を見ながら和やかに食事できるようテーブルの配置を工夫している。</li> <li>・メニューは利用者様の意向も反映させている。</li> <li>・調理・盛付・片付けなど利用者様と一緒にこなしている。</li> </ul>	○	個人の体調に合わせて調理や片付けなどが続けられるようカンファレンスで話し合っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在、酒・タバコなどの希望者はいないが希望の方が入居されれば可能です。 お茶・コーヒーやおやつなど、できるだけ好みを聞いて用意するよう心がけている。	○	・できるだけ利用者様の好みのおやつを食べて頂くようその都度話し合いをする。 ・事業所にあるものは入居者様の物であると認識しており入居者様が自ら冷蔵庫を開けて自分で選べるような環境作りをしたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・個人の排泄パターンを記録しており、間隔・習性・量・排尿排便の兆候・トイレの場所がわかるかなどを把握し誘導している。 ・段階を追って検討しながら、オムツに移行するなど色々な工夫の結果オムツに至っている。 ・個別の排泄パターンを理解し時間で誘導(「トイレ」では理解できない方に対しては「便所」等その人が理解できる言葉で)し、できるだけ不快な気分にならないよう心がけている。	○	可能な限りトイレでの排泄を心がけます。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	・無理強いせず、拒否のあった場合は時間を置いて再度声掛けし、それでも拒否する場合は日を改める。 ・生活習慣で夜を好む方もおり、希望に沿って行なっている。	○	羞恥心・恐怖心・負担感などを配慮し利用者様を脅かさず抵抗感をもたらさない入浴支援を心がけます。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	・個々の生活パターンが違うので起床時間、就寝時間、又昼寝も含め強要しないようにしているが、状況によっては助言をする。 ・不眠を訴えた場合、安易に薬を使用しないよう眠れない原因は何かを職員間で話し合い解決策を見出す努力をしている。	○	今後も継続
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	・今日は何をしたいか？希望を聞きながら楽しんでもらっている。 ・時には個別に、時には集団で楽しめることを職員がアイデアを出す利用者様が決定し楽しんで頂いている。	○	一見楽しそうに見えてもそうでないこともあり、それぞれの気持ちや力を活かした場面づくりができるよう努力する。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・ご家族と相談しながら所持できる方は小遣い程度を持ってもらい、要望があれば買い物時に支払いをしてもらっている。ご家族に報告すべきことは報告をしている。	○	使わなくても自分で所持しているだけで安心し、満足感を味わえると思われるため今後も継続して支援する。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	・散歩の他買い物や外食、ドライブ、又は町内会のお祭りなど積極的に戸外へ出る機会を作っている。 ・歩いて近くの店へ行き、好きな物・欲しい物を自分で選び自分で支払いをすることもして頂いている。	○	買い物など1人で行動したい方がおり、気づかれぬように後ろから職員がついていき一部始終を見守っている。ご本人は束縛されないで1人で買い物をした満足感がある様子なので、継続して見守りのなかで行なっていく予定。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたくい普段はいけな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支援 している。	・「家に帰りたい」と希望された場合、鍵を預かっている身内の方と相談の上、職員も 同行して一時帰宅の望みをかなえることもある。 ・墓参りや、パチンコ、美容室等ご本人の希望に沿って家族と共に外出している。	○	今後も同様の支援をする。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している。	家族の声を聞きたくなると「電話をかけて欲しい」と希望する方もおり、その都度利用 して頂いている。	○	今後も継続
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している。	・面会時間は特に設けていないので、ご家族・馴染みの方々がそれぞれの都合の 良い時間にいつでも来訪して頂けるようにしている。	○	気軽に来訪しやすい雰囲気作りに心がけていく。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる。	・入居者様の行動を制限するような行為は行なっていない。 ・ミーティング等でその日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束が行なわれてい ない等 の確認を行なっている。又、職員間で共有認識を 図っている。	○	昨今、新聞やTVなどで事件として報道されることが多いため、その都度職員間で 自分たちのケアについて話し合っており、今後も話し合いの機会を作って行く。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・入居者様一人ひとりの外出の仕方や傾向を把握しており対応できている。 ・6:00～21:30までは玄関の鍵をかけていない。 ・居室は利用者様ご本人が室内から錠をする方が数人おり、緊急に備えて室外から 開けられるようにしている。	○	出て行く気配を職員が見落とさないよう見守りや連携プレーに努めます。
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、 安全に配慮している。	・事務室は全居室の出入りが確認できる位置にあり、夜間、職員は常に見守りやす い位置にいる。 ・台所に入ってしまうと背中を向けてしまい、入居者様の様子がわからなくなるので こまめに台所から出て確認するようにしている。	○	今後もプライバシーに配慮した見守りで安全確認できるよう努めます。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすの ではなく、一人ひとりの状態に応じて、 危険を防ぐ取り組みをしている。	・厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、利用者様が使用するとき に注意が必要のものに分けるなど、利用者様の状況に合わせた保管・管理を している。 ・包丁、鋏、カッター等はその人の能力に応じた使用方法で使用してもらっている。	○	認知症が進行していく上で、今までにない行動が表れることを予測し、目に触れ ない場所に保管しなければならない物もあり、検討中である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	・職員が気づかないうちに外出してしまう方が数名おり、交番への協力をお願いしており、一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐ為の工夫に取り組んでいる。 ・体操には発声も取り入れ誤嚥防止に取り組んでいる。 ・インシデント・レポートにより職員の共有認識を図っている。	○	広報により町内会の方々にも協力をお願いします。
70 ○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	・マニュアルを作成し周知徹底を図っている。 ・家庭用掃除機の使用で可能な吸引ノズルを常備しており、職員は使用方法を熟知している。	○	応急手当の勉強会を定期的に行うことを検討。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	・緊急・火災発生連絡網、火災通報の方法のマニュアルがある。 ・1回/年、消防署の協力を得て避難訓練を行い、避難経路の確認、消火器の使用方法などの訓練を行なっている。	○	全職員が混乱せずに行なえるよう全員参加で訓練するよう心がける。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	・利用者様に起こりうるリスクの説明をご家族にしており理解を得られている。 ・リスクはその状況の変化に合わせ個別的に見直しをしている。	○	その都度状態の変化に沿って話し合いをしていきます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	・一人ひとりの持病、留意を把握し普段の状況とは違う様子を注意深く観察している。 変化や兆候に気づいた場合は、速やかに医療と連携する(結果などはご家族に電話やお便りで報告)	○	状態の変化について報告するだけでなくその時点で対応した職員は簡潔に記録することを心がける。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・看護師により服薬ファイルや処方箋の写しをファイルして職員が内容を把握できるようになっている。 ・服薬の前後を職員が見守っており、確実にできているかの確認をする。 ・状態の観察をし、医師や家族に連絡するなどの連携をとっている。	○	薬について学習する機会を設ける。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	・繊維質の多い食材や乳製品を取り入れた食事やおやつにするようメニューを工夫している。(ヨーグルトや果物は毎日) ・散歩や家事活動、体操などの運動により自然排便ができるよう体を動かす働きかけをしている。	○	どうしても薬に頼らざるを得ない利用者様もいるが、できるだけ自然排便を促すことができるような工夫を心がけたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状態に応じ、歯科医師の往診がある。</li> <li>・毎朝、口腔ケア実施(一人ひとりの習慣や意向を踏まえ個別に働きかけている)</li> <li>・入れ歯の管理、手入れができるように支援している。</li> </ul>	○	現在は起床後と全員ではないが就寝前の口腔ケアを行なっている。今後は個人に合わせて昼食後も行なうことも検討したい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事や水分の摂取量を毎日チェック表(生活アセスメントシート)に記録し、職員は情報を共有している。</li> <li>・むせたり、飲み込みが悪い方に対してはトロミをつけたり、食べる姿勢を工夫したり、食器の工夫などして食が進むよう心がけている。</li> </ul>	○	栄養バランスに配慮しながら、一人ひとりの嗜好を確認して献立に取り入れていくよう心がける。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対応マニュアルを作成している。</li> <li>・入居者、職員共うがい・手洗いの励行に心がけている。</li> <li>・トイレや廊下などの手すりは除菌・漂白剤で消毒している。</li> <li>・風邪症状出現時はマスク着用で拡大の防止を図っている。</li> </ul>	○	勉強会でマニュアルを見直し、新しい知識を得、感染症の流行に随時対応していきたい。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日買い物に行き、生鮮食品は当日購入するよう心がけている。</li> <li>・食器、まな板、布巾などは毎日漂白剤で除菌している。</li> <li>・食材を長期間保存させない様定期的に冷蔵庫の整理をしている(キッチンノート作成しチェックしている)</li> </ul>	○	今後も清潔と衛生に心がけて食材を管理していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関周囲には花壇やプランターを置くなどして季節を演出している。</li> <li>・建物正面壁の上方に事業所名を入れて外部の人にわかり易くしている。</li> <li>・玄関内に置いてあるベンチを玄関先に移動させ休息できるよう工夫している。</li> </ul>	○	近所の方々が気軽に立ち寄って頂けるような雰囲気作りに心がける。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビングと台所はカウンターで仕切られているが出入りは自由。茶わんを洗う音や御飯の炊ける匂い、まな板で食材を切る音など我が家の雰囲気が漂い、季節感を取り入れた料理にも心がけている。</li> <li>・フロアの飾り付け(利用者様の作品など)や家具の配置も利用者様と相談しながら行っている。</li> </ul>	○	1日の大半を過ごすリビングは利用者様それぞれが居心地のよい安心感のある場所になるよう今後も工夫していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・リビングにはソファを4脚置きそれぞれが居やすい場所に座る。 ・食卓テーブル、ベンチ等の配置に工夫している。	○	個々の状態の変化、利用者同士の関係性に配慮し、一人ひとりが思い思いに過ごすことのできる居場所作りを心がける。
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・馴染みの家具を持ち込んで安心できる居室になっている。 ・気に入っている物、使い慣れた物(時計やTVなど)を置いたり、仏壇を置くなどしてその人が安心して暮らせる居室になっている。	○	ご本人の意向を確認しながら、その人らしく過ごせる居心地のよい居室作りに取り組んで行く。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	利用者様の状況を観察しながら毎日換気したり空調管理を行なっている。	○	職員の感覚だけでなく利用者様一人ひとりの状況に配慮した温度調節に心がける。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・リビング、廊下、トイレ、玄関には手すりを設置したり、玄関内にベンチを設け履物着脱時の転倒防止策としている。 ・外玄関はスロープ設置し車いす移動可能。 ・洗面台は1ヶ所を車いす対応としている。 ・3ヶ所あるトイレのうち1ヶ所は車いすでの出入り可能な広さになっている。 ・トイレ内は可動式の手すりも設置されており、安全性が確保されている。	○	個々の状態の変化に応じ、家具の配置を検討するなど、利用者様の視点に立って生活環境を整えていくよう心がける。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	・居室の出入り口には個人の写真と表札をかけ混乱を防いでいる。 ・トイレのドアに「トイレ」の表示をし、混乱を防いでいる。	○	個々の状態の変化に応じた対応をしていくことを心がける。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑を作っており、収穫を楽しんだり、ベンチに座って日光浴をしながらお茶を飲んだり、駐車場のスペースでバーベキューを楽しむなど活用している。	○	今後、身体機能が低下し、それに伴って日常の外出が困難になる方も出てくるのが予想されるが、車いすの利用などで、できる限り外の空気や景色を楽しみ、心身のリフレッシュができるような関わりをしていく。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>○②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>①毎日ある</li> <li>○②数日に1回程度ある</li> <li>③たまにある</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>○①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ全ての利用者</li> <li>○②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>○①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>○①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>○①ほぼ全ての利用者</li> <li>②利用者の2/3くらい</li> <li>③利用者の1/3くらい</li> <li>④ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>○①ほぼ全ての家族</li> <li>②家族の2/3くらい</li> <li>③家族の1/3くらい</li> <li>④ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ほぼ毎日のように</li> <li>②数日に1回程度</li> <li>○③たまに</li> <li>④ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている            ○②少しずつ増えている            ③あまり増えていない            ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が            ②職員の2/3くらいが            ③職員の1/3くらいが            ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が            ○②利用者の2/3くらいが            ③利用者の1/3くらいが            ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての家族等が            ②家族等の2/3くらいが            ③家族等の1/3くらいが            ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

現在入居中の方は、自力歩行ができる方ばかりです。入居するまでは家事一般ができていた主婦の方や、これまでの生活環境で台所に立っていた男性の方が入居されています。皆でメニューを考え、食材の買出し、調理等食事に関する一連の作業は入居者様、職員と共同で行なっている点はできるだけ長く継続していきたい。それぞれの役割が自然とできておりその人らしさが十分に活かされたホームだと思います。